

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104034		
法人名	(株)セービング		
事業所名	グループホーム小月		
所在地	山口県下関市小月宮の町7-3		
自己評価作成日	平成30年2月19日	評価結果市町受理日	平成30年6月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年 3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者は職員と一緒に買い物に行き、一緒に家事を行い、同じ食卓にて、一緒に食事を楽しんでいる。食事を3食手作りし、その方にあった食事形態を用意し、出来立てのものを召し上がって頂いている。「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」生活リハビリを行うことで入居者の能力を活用し、いきいきとした表情が見られるように自立支援を目的に支援している。散歩や買い物、外食・外出、その方に応じた誕生日の支援、地域への行事参加、徘徊模擬訓練の協力や小学生や婦人会等のボランティア訪問を積極的に取り入れ、入居者の方々が楽しみのある生活を送り、普段の生活の中で地域とつながりが持てるように努めている。家族会は年3回行い、季節に応じて、催しものを考え、家族と一緒に食事を楽しみ、一緒にできるレクリエーションを行っている。職員は法人の全体研修に毎月参加し、グループホーム内の研修も行い、働きながら学んでいる。また、普通救命講習を受講し、緊急時の対応について全職員が冷静に対応できるように実践的に学んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会の清掃活動や地域行事(夏祭り、体操教室、童謡の日など)に利用者と職員と一緒に参加されています。事業所では各種ボランティアの来訪の他、中学生の職場体験や専門学校の実習を受け入れられています。法人の隣接施設で自治会や婦人会、民生委員等と協力して認知症カフェを開催され、利用者と職員と一緒にカフェや百歳体操に参加されたり、小学3年生のふれあい学習の場を提供されて、歌や手話、利用者と一緒にお茶を飲むなど、運営推進会議での情報交換から地域の幅広い年齢層の人々との交流機会を増やされています。食事は三食とも事業所でつくっておられ、食材の買い物や後片付けなど、利用者はできることを職員と一緒にされています。月に1回は利用者全員で外出する日を設けておられ、花見やドライブ、リンゴ狩りなどに出かけて外食を楽しまれています。利用者は新聞取りや散歩などの日常の外出の他、誕生日には本人の希望による個別外出、家族の協力を得て温泉宿泊、コンサートなど、利用者一人ひとりの希望にそって戸外に出かけられるように支援しておられます。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の企業理念と行動指針、グループホーム独自の理念を掲示し、朝礼で唱和し、共有しており、それを念頭に実践につなげている。グループホーム独自の理念は地域密着型サービスの意義にふまえて、開設時に作成したものである。職員各自が年度ごとに個人目標を作り、年度末に振り返りを行い、理念に添えるように実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた法人の理念と行動指針があり、事業所独自の理念と共に事業所内に掲示し、朝礼で唱和している。年度ごとに全体目標や個人目標をつくり、月1回の職員会議で話し合い、ケアの振り返りをして、理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物に行く地域の方々が声をかけて下さり、自治会の清掃活動、公民館で行われる夏祭り、文化祭、童謡唱歌の会や体操教室に参加している。婦人会、コーラス、フラダンス、よさこい、平家太鼓、書道、ハーモニカ演奏のボランティア訪問がある。小学校の運動会の見学や小学生がふれあい学習で歌や手話を披露されたり、入居者と一緒に折り紙や塗り絵をして過ごしている。クラブ活動の一環として日本舞踊の来訪もあり、日常的に地域の人と交流している。	事業所として自治会に加入し、総会や自治会の清掃活動(溝掃除、草取り)に参加し、回覧板を利用者と一緒に回している。地域の夏祭りや公民館の体操教室(年3～4回)、文化祭への出展(書道、ちぎり絵)、童謡の日(年1回)に利用者と職員と一緒に参加している。婦人会ボランティア(傾聴、散歩、レクレーション)、生花、コーラス、シャンソン、フラダンス、よさこい、小月平家太鼓(小学生)や日本舞踊クラブ、書道、演奏(ハーモニカ、フルート、ギター)、童謡唱歌の会などの来訪がある他、中学生の職場体験、専門学校の実習を受け入れている。小学校の運動会の見学に行っている。法人の隣接施設で自治会や婦人会、民生委員等と協力して認知症カフェを開催し、利用者はカフェや百歳体操に参加したり、事業所として、小学3年生のふれあい学習の場を提供し、歌や手話、利用者とお茶を飲むなど、地域の幅広い年齢層の人々と交流の機会を増やしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	婦人会ボランティア訪問時に介護保険や認知症の理解、施設についての質問に応える機会を設けている。また、運営推進会議にて、情報提供や意見交換を行うと共に認知症カフェを同一敷地内に設け、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている。地域の徘徊模擬訓練では徘徊役として協力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	運営者が職員会議にて評価の意義について説明し、管理者が自己評価書類を全職員に配布し、記入後にまとめている。自己評価を記入することにより、ケアの振り返りを行い、介護サービスの質の向上を図ることができるように取り組んでいる。介護関係の新聞の切り抜きをして、職員がコメントを書き、新たに知識を得るようにしている。目標達成計画により、緊急時の具体的対応法のマニュアルを活用し、婦人会の勉強会において学ぶ機会を設け、職場内研修にて応急手当について継続して行っている。普通救命講習を受講し、全職員が対応できるように取り組んでいる。	運営者と管理者が職員会議で評価の意義について説明している。各職員が自己評価の実施状況を記入し、各職員が記入したものを管理者がまとめている。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立て、応急手当や初期対応の定期的訓練や普通救命講習の受講など、訓練の充実や小学校との交流を広げるなどの課題に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域包括支援センター職員、地域の各団体の代表者に参加して頂き、現状報告や計画、入居者状況を報告し、意見交換を行っている。自治会や消防団の方々には避難訓練参加を依頼し、避難経路確認の為、施設内の見学を行い、災害時の連携体制を築いている。また、災害時の非常食の試食を行い、全員で防災意識を強めている。	会議は2カ月に1回開催している。利用者の状況報告、行事報告、行事予定や報告などを行ない、地域行事の情報提供を得ている。情報や意見を交換する中で、認知症カフェの開催や百歳体操、地域の徘徊模擬訓練への参加、事業所の避難訓練への消防団や地域の人の参加、小学3年生のふれあい学習の場の提供、ボランティアの来訪につなげるなど、地域との交流や利用者へのサービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員とは運営推進会議参加時や電話、出向くなどして情報交換を行い、徘徊模擬訓練の協力、同一敷地内で行われる百歳体操に入居者と共に参加している。市町担当者とは電話や質問票を出し、協力関係を築いている。	市担当者とは、出向いたり電話やファックスで相談し、指導や助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議参加時や出向いたり電話などで情報交換をし、認知症カフェの開催や地域で行う百歳体操、徘徊模擬訓練等で連携を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内研修にて全職員が身体拘束について学び、理解している。通常、玄関の施錠はしているが、外出したい時には一緒に外に出て、職員間で声をかけあい、業務の工夫をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。入居者の行動を制限する言葉は使わないように取り組んでいる。	マニュアルや資料(法人のグループホームが協力して作成)を基に、職員は内部研修で学び、職員会議で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関には施錠せず、外出したい利用者とは職員と一緒に外に出かけている。スピーチロックがないように言葉かけに配慮し、気付いた時には管理者が指導したり、職員同士で注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修にて虐待や身体拘束について学んでいる。入居者の方々の立場を十分に理解し、言葉かけやケアの方法を話し合うようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がおられる。グループホーム内の勉強会を行い、入居者の方への理解につなげている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族へ十分に説明し、将来的な不安、疑問点もしっかり耳を傾け、一緒に考えるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談、苦情の受付体制や処理手続きについて家族に説明している。家族会や面会時にて意見や要望を尋ね、全職員に周知している。家族からの意見を取り入れ、家族会にて家族と入居者が一緒にできる歌や書道、フラワーアレンジメント等を行っている。運営推進会議にて状況を報告し、意見交換を行っている。	契約時に相談や苦情の受付体制、処理手続きを本人や家族に説明している。年3回の家族会参加時や面会時、運営推進会議参加時、介護計画見直し時などを活用して、家族からの意見や要望を聞いている。事業所だよりを月1回発行して、家族からの意見や要望が出しやすい雰囲気をつくるよう工夫している。家族会で本人と一緒に出来る企画をしてほしいという要望があり、歌を歌ったり、書道やフラワーアレンジメントで利用者と家族が一緒に楽しめるようにしているなど、意見や要望を運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員会議にて職員の意見や提案を聞いている。管理者は申し送り時や日常の業務の中で職員の意見や提案を聞き、判断できない場合は代表者に尋ね、問題を放置せず、解決するように努めている。	運営者や管理者は、月1回の職員会議時に職員の意見や提案を聞いている他、事務室に職員の意見箱を設置している。管理者は日常的に職員が意見を言いやすい雰囲気づくりをし、意見や提案を運営者に伝えている。介護技術の向上につながる研修の要望を受け、法人内から講師を派遣して研修を行うなど、意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は入居者と職員ひとりひとりに声かけを行っている。有給休暇は取りやすくなっている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員が勤務の一環として参加できるように機会を提供している。法人全体研修は介護職場のマナー、コンプライアンス、企業理念、行動指針、個人情報保護、マニュアル、介護技術の研修が毎月1回あり、全職員が参加し、記録に残している。グループホーム内の研修は各グループホームの管理者が1年間のテーマを決め、リーダーが資料を作成して職員会議の中で実施している。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加する機会を提供し、延べ8回参加している。受講後は復命書を回覧し、職員会議で報告して職員間での共有を図っている。法人研修は、10テーマで各2回実施し、全職員が参加できるように配慮している。内部研修は、月1回、職員会議の機会を活用し、年間計画(接遇、応急処置方法、災害時の対応、認知症、プライバシー保護等)を立てて実施している。新人は、法人のマニュアルに基づき、理念を含めて日常のケアの中で、働きながら学べるよう指導している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所、グループホーム連絡会や地域ブロック研修会に参加して研修や情報交換、施設見学に参加し、参考にできることを取り入れている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に基本情報シートを家族に記入して頂き、情報収集を行い、サービス導入前に本人の心身の状態を把握している。本人の思いを傾聴し、気兼ねなく安心して生活できるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話を十分に聴き、困っていること、不安なこと、要望等を聴き、事業所としてできることを伝えている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常の生活動作、身体的・精神的健康、社会関係、経済状況、住生活環境などについて、本人と家族等の「その時」のニーズを的確に把握し、適切な支援ができるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする同士として、本人のできること、好きなことを見極め、本人の意思で生活できるように努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会には家族に来て頂き、一緒に祝い、共に過ごす時間を大切にしている。また、小月だよりを送る時には本人の日頃の様子を手紙で伝え、家族と共に本人を支えていくように努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者と馴染みの職員と家族と一緒に温泉に一泊で行かれ、実家にも立ち寄られたり、家族の協力を得て、馴染みの美容院に出かけたり、お正月やお盆、法事やドライブにも外出している。入居者に年賀状や暑中見舞いを書いて頂いたり、電話や手紙での交流を支援している。敬老の日や父の日、母の日のお祝いが送られた時にはお礼状を書いて頂いたり、電話をしている。家族や親戚、近所の人、同級生の面会があり、ゆっくり居室で過ごして頂き、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	家族の面会や親戚の人、友人、知人(近所の人、同級生、以前の職場の同僚、デイサービスで一緒だった人)などの来訪がある他、暑中見舞いや年賀状、礼状などの手紙、電話などでの交流を支援している。誕生日などの一時帰宅や家族と一緒に温泉宿泊が出来るように支援している。家族会を開催し、花見やそうめん流し、年越しそばと大掃除など、家族と一緒に楽しめるよう支援している。家族の協力を得て、盆や正月などの外出や外泊、墓参り、法事、馴染みの美容院の利用の支援をしているなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにて皆で一緒にお茶や食事をしたり、談話やレクリエーションを行うなど、皆で一緒に楽しめるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所されたり、他施設に移られた後でも、お見舞いや電話にてその後の様子を尋ねている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、家族からの基本情報を記入してもらい、今までの暮らしぶりや望む生活、ADL、健康状態、コミュニケーション能力についての把握に努めている。日々の入居者の言動を24時間生活変化シートに記録し、勤務前に目を通し、本人の心身の状態について把握するようにしている。困難な場合は家族に相談したり、細かな声かけを行い、その思いをくみとり、入居者一人ひとりにカンファレンスを開き、検討している。	センター方式のシートを活用している他、日々の関わりの中での利用者の言動を24時間生活変化シートに記録し、月1回のカンファレンスで計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって検討して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員がカンファレンスや職員会議で本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人から話を聞く等、職員間で共有し、把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間生活変化シートに入居者一人ひとりの生活の様子を記入し、健康チェック表にバイタルや食事摂取量、排泄を記入している。朝夕の申し送り時にも一人ひとりの一日の様子を伝えている。また、生活リハビリの中でも一人ひとりの有する力を把握するように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向、主治医の意見を参考にして職員間でケアカンファレンスを行い、援助目標、援助内容を決め、介護計画を作成している。家族の面会時に意向の再確認と介護計画の説明を行っている。毎日、全員のモニタリングを行って計画の見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって、月1回のカンファレンスで検討し、本人や家族の思いや意向、主治医や訪問看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。計画に添ったケアをしているかを毎日チェックし、1ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎に計画の見直しをしている他、利用者の状態に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは24時間生活変化シート、健康チェック表、連絡ノートに記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関への受診支援、また、誕生日には本人に合わせた楽しみのサービスができるように柔軟に支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物でスーパーや市場を利用し、公民館の行事参加、神社の参拝など地域とふれあいながら、安全で豊かな生活ができるように支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医としている。内科、心療内科ともに2週間に一度往診がある。協力医療機関往診の際には、利用者の心身の状態を伝え、医師の往診後には連絡ノートに記入し全職員で共有している。緊急時には電話で様子を伝え、指示を仰ぎ、必要であれば、往診に来て頂いている。他科の医療機関への受診は家族に協力して頂いている。家族が同行できない時は職員が受診の支援をしている。訪問看護ステーションからは毎週訪問があり、歯科も必要に応じて往診の依頼をしている。	本人や家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1回往診を受けている。従来からのかかりつけ医から往診を受けている利用者もある。他科受診は家族の協力を得て支援をしている。受診時には医療機関に情報を提供し、受診結果は面会時や電話で家族に伝えている。職員間は連絡ノートで情報を共有している。訪問看護ステーションから週1回、法人内看護師の訪問が週2回あり、利用者の健康チェックや職員が相談をする機会としている。歯科は必要に応じて往診依頼をしている。協力医療機関と24時間の医療連携体制をとり、緊急時の対応に備え、適切な医療がうけられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、週1回の訪問看護と職場内の看護師が週2回、入居者の様態を観察し、個々に合わせた相談ができています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は面会に行き、病院関係者と情報交換し、家族と話し合い、早期退院ができるように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについて事業所ができることについて、家族に説明している。重度化した場合は主治医、家族、職員と今後の方針を話し合い、訪問看護と連携し、チームで支援に取り組んでいる。	終末期に事業所でできる対応について、契約時に本人や家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から職員と家族、看護師、主治医と方針を話し合っている。状況の変化に応じて度々話し合い、方針を確認している。職員は看取りについて研修で学び、主治医、訪問看護師、家族のチームで看取りの支援が出来るよう取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットや事故報告書を記録し、職員間で事故防止策について検討後、回覧し、情報共有している。職員会議にて報告を行い、再検討して事故防止に取り組んでいる。職場内研修にて年2回応急処置方法(止血やショック状態への対応)の研修を行っている。また、消防署の方に来て頂き、普通救命講習を受講し、実践力を身につけるように取り組んでいる。	事例が生じた場合は、ヒヤリハット報告書や事故報告書に記録し、回覧したうえで、月1回の職員会議で再検討して、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。消防署の指導で普通救命講習を受け、内部研修で年2回、止血やショック状態への対応の研修を実施している。管理者は防災フェアでAEDを取り入れた心肺蘇生法や応急処置について学んでいる。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼、夜間を想定して消火、避難、通報訓練を行っている。婦人会、消防団に参加を依頼し、火災通報装置緊急連絡先に地域の人を交えている。消防局主催の防災フェアにて、消火栓の部の選手として参加し、119番通報、屋内消火栓による注水など一連の初期消火活動を競い、改めて消火活動に対する意識を高めることができ、学ぶこともできた。また、防災フェアの出展コーナーにてAEDを取り入れた心肺蘇生法や応急処置を習得する場があったので、参加し学ぶことができた。	年2回、消防署の協力を得て昼夜間を想定した消火・通報・避難訓練を実施している。運営推進会議で検討して地区の消防団や婦人会、近所の人の参加協力を得ており、利用者も一緒に参加して訓練を実施している。火災通報装置緊急連絡網に自治会長や近所の人が入って、事業所や法人が地域との協力体制を築いている。管理者は消防局主催の防災フェアに選手として参加し、初期消火について実践的に学んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体研修や職場内研修で接遇について学び、馴れ馴れしい言葉かけや流行り言葉は止め、入居者が聞き取りやすいように意識して話しかけている。新しく入った職員には守秘義務について説明している。個人カルテは外側から見えないように保管している。	法人研修や内部研修で接遇について学び、職員会議で人格の尊重とプライバシーの確保について話し合い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に取り組んでいる。日々のケアの中で気づきがあれば管理者が指導し、利用者一人ひとりに合わせた働きかけをしている。新人研修では守秘義務について指導し、文書の保管等に配慮している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイム時の飲み物やお菓子、食事など、本人が食べたい物を聞いている。家にいる時と同じように気兼ねなく過ごせるように本人の思いや希望を聴いている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を居室で過ごされたり、リビングでテレビ観賞や談話したり、本人の意思に添って、その人らしい生活ができるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて、その人らしいおしゃれができるように一緒に衣類の整理整頓を行っている。毎月の訪問理容を心待ちにしておられ、散髪やヘアカラーをして喜ばれている。男性の入居者の方には、髭剃りの声かけをおこない、身だしなみを整えて頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物に行き、好みを尋ねながら、旬の献立を考えている。地産地消を心がけ、ふるさと市場を利用し、3食ともにホーム内で調理し、出来立ての料理を召し上がって頂いている。入居者の状態に合わせて、きざみ、ミキサー、粥、トロミ等の工夫をしている。ティータイム時にはホットケーキ、おはぎ、ゼリー、ラスク、ようかん等の手作りのお菓子を用意し、喜んで頂いている。食材を切ったり、盛り付け、テーブル拭き等、できることをしてもらい、家事に参加して頂いている。季節の行事食(おせち料理、恵方巻、節句料理、バーベキュー、そうめん流し、年越しそば)や外出時のお弁当、誕生日のケーキなど食事が楽しみなものになるように支援している。	利用者の好みを聞いて献立を立て、三食とも事業所で調理している。利用者の状態に合わせた形状で食事を提供している。利用者は職員と一緒に食材の買い物に行き、食材を切ったり、味見、盛り付け、配膳、下膳、食器洗いなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じものを同じテーブルで食べ、会話をしながら食事を楽しんでいる。ホットケーキやおはぎ、ラスク、ようかん、ヨモギケーキなど手づくりのお菓子でティータイムを楽しんでいる。月1回、全員で外出に出かけ刺身や寿司等を楽しんでいる。誕生日のケーキや行事食(おせち料理、恵方巻、節句料理など)、家族会と会食(そうめん流し、年越しそば)、弁当を持ってくる花見、他のグループホーム利用者を招いてのバーベキューなど、家族や外部の人とも食事を楽しめるように工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量摂取量の記録をしている。お粥やミキサー食、むせる方には水分にトロミをつけるなど、その方にあった食事を提供している。水分量が不足している入居者の方にはお茶ゼリーを提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に応じて、義歯の洗浄をしている。口腔ケアの拒否をされる方には時間をおいて声かけし、自分の力で口腔ケアできない方には理解し易いように声かけし、介助している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表や24時間生活変化シートを活用して、パターンを把握し、声かけ、誘導を行っている。トイレの場所がわからずにそわそわとされている時もトイレで排泄できるように声かけ、誘導している。居室にトイレがある為、排泄のパターンが把握できないこともあるが、居室のトイレを好んで使用されている。	排泄チェック表や24時間生活変化シートを活用して排泄のパターンを把握し、一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時にホットミルク等の飲み物を飲んで頂いたり、手作りヨーグルトを提供している。運動を取り入れたレクリエーションや散歩を行っている。お茶ゼリーを提供し、なるべく薬を使わず、便秘を予防している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日14時から16時までゆつくりとあたたまるように入浴剤を入れ、入浴を楽しめるように工夫している。入浴したくない入居者には時間をずらしたり、職員を代えたり、言葉かけの工夫をしている。入居者の状態に合わせて、全身清拭や足浴を行っている。寝る前の入浴は難しく、希望には応えられていない。	入浴は毎日、14時から16時までの間可能で、入浴剤を使って変化を楽しんだり、柚子湯などの季節の風呂を楽しめるよう支援している。入浴したくない人にはタイミングを考えた言葉かけをしたり、職員を変える等の工夫をしている。利用者の体調などに合わせて、シャワー浴や清拭、足浴などの支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は入居者の半数以上の方が自然と居室やソファで休んでおられる。室温や乾燥、物音に気をつけ、安心して気持ち良く眠れるよう、寝具類も清潔にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の副作用は理解できていないが、服薬後の入居者の様子はしっかり観察している。新しく薬が変わった場合や服薬後、症状に変化があった場合は主治医に相談後、連絡ノートに記入し、職員間で共有している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ぬり絵やそろばんを使用しての計算、歌、毎日の掃除、洗濯物干し、たたみ、調理や畑づくりなど入居者一人ひとりが持っている力を生かした役割をつくり、張り合いや喜びのある日々を過ごして頂いている。節分、七夕、バーベキュー、焼き芋、誕生日会、敬老会、クリスマス会等の季節の行事、ボランティア(小学生によるふれあい学習、小学生による日本舞踊、コーラス、婦人会、平家太鼓、よさこい、ハーモニカ、フルート、フラダンス、書道など)の訪問を積極的に取り入れ、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	ドライブや外食、誕生会、母の日、父の日、節分、ひな祭り、七夕、クリスマス会、敬老会、焼き芋会、家族会での季節の行事、書道、生花、月1回の童謡唱歌の会(年1回の童謡の日)、コーラス、シャンソン、演奏(ハーモニカ、フルート、ギター)、フラダンス、よさこい、小月平家太鼓(小学生)、日本舞踊クラブ、婦人会(傾聴、散歩、レクリエーション)のボランティアとの交流、小学生や中学生、専門学校生との交流、百歳体操、タオル体操、ラジオ体操、テレビ体操、口腔体操、風船バレー、文化祭に出品する作品づくり、カルタ、トランプ、ことわざ、歌を歌う、フラワーアレンジメント、ぬり絵、はり絵、計算、編み物、新聞取り、食事の支度や片付け、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、畑づくりなど、利用者一人ひとりの楽しみごとや活躍できる場所づくりをして、喜びや張り合いのある生活を送れるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い物や散歩、誕生日の外出支援(温泉、花の海)、季節の花見(梅、桜、菖蒲、バラ、コスモス、紅葉)、ドライブ(道の駅、江汐公園、東行庵、リンゴ園、カモンワーフ、ゆめシティ、回転ずし)など、月に一度は出かけている。職員による自宅への外出支援や家族の協力を得て、外出、美容院、外食、法事へ参加もされている。また、歌手のコンサートに出かけ、職員や家族と一緒に歌を楽しまれている。	月に1度は外出の日を設け、初詣、花見(桜、菖蒲、バラ、コスモス、紅葉)やドライブ(道の駅豊北、川棚リフレッシュパーク、焼野海岸、小野田サンパーク、江汐公園、ゆめシティ、カモンワーフ、東行庵と日の山、門司港レトロ)、栗拾い、リンゴ狩りなどに出かけ、その日は外食も楽しんでいる。誕生日の外出は温泉や自宅など、本人の希望によって外出先を決めている。地域や法人の夏祭り、体操教室、文化祭、童謡の日、認知症カフェ、百歳体操、小学校運動会の見学、自治会の清掃活動、回覧板を持っていく、家族の協力を得ての温泉宿泊、春の花見、コンサート、法事への参加、馴染みの美容院利用などに出かけている。日常的には新聞取り、食材の買い物、近隣の散歩など外出出来るように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は持っておられないが、身の回りの必要な物は家族の了解を得て、立替金から購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の電話番号をメモに取り、大切に持っている方がおられ、希望により、電話して頂いている。暑中見舞いや年賀はがきに本人の写真を入れ、名前を書いて頂いて郵送している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁面や廊下に入居者の作品や行事の写真を飾り、家族が面会に来られた時も暮らしの様子がよくわかるようにしている。季節ごとに飾り物や花を飾り、季節感を感じて頂くようにしている。また、リビングのソファやテレビの配置を工夫し、動線を考えた安全な配置にし、観葉植物を置き、室温や湿度に配慮し、明るくゆったり過ごせるようにしている。台所は対面式キッチンであり、調理しながら、入居者の様子も見られ、カウンターを利用して調理のお手伝いをして頂くことができ、調理の匂いで「お腹が空いた」と言い、台所に来られる入居者の方もおられる。	リビングや廊下の壁には、利用者と一緒に作った季節の折り紙やはり絵、習字作品、行事の写真を掲示し、室内には季節の生け花や観葉植物を飾っている。開放的なアイランド型キッチンで、利用者は調理の匂いや音で生活感を感じることができる。リビングは広く、テレビやソファを配置し利用者はゆったりと過ごすことができる。畳の間にはひな人形を飾っている。温度や湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや廊下の椅子にて、親しい入居者同士で会話を楽しんでいる。座布団やクッション、ひざ掛けを使用し、ゆったり思い思いに過ごして頂いている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベット、文机、布団、衣類、衣装ケース、椅子、人形、写真などを持って来られ、読書を好まれる方は本を置いたり、「私の部屋」として楽しんでいる。写真や色紙、ぬり絵を飾り、居心地よく過ごせる工夫をしている。	ベットや寝具、タンス、机、椅子、仏壇、テレビ、時計など、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真やぬいぐるみ、干支人形、プレゼントされた花、本人のぬり絵や貼り絵の作品などを飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレに手すりを設けている。居室は自立した生活が送れるように整理整頓や動線を考えた家具の配置を工夫している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム小月

作成日：平成 30 年 6 月 19 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	急変時や事故発生時に備えて、内部研修で年2回、止血やショック状態への対応の研修を行っているが、マニュアル資料の読みあわせで終わっている事が多く、いざという時の緊急時の具体的対応について職員に不安がある。	職員ひとりひとりが実践力を身につけ、いざという時に冷静に対応できるようにする	①救急時対応のマニュアルを見直す。 ②内部研修の参加記録表を作り、参加状況を把握し、不安な項目について実践を含めた勉強会を行う。 ③普通救命講習(3時間の講習)を受講する。	H30. 3～ H31. 2
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。